

みんなの翻訳

著者：内山将夫 (NICT), 阿辺川武 (東大),
隅田英一郎 (NICT), 影浦峽 (東大)

発表者：サ ミンソン

1 はじめに

- ボランティアの翻訳者は、様々な文書を翻訳している
 - オープンソースのマニュアルの翻訳
 - Global Voices Online のようなブログの翻訳など
- オープンソースのマニュアルの日本語訳は、日本人のユーザーにとっては、大変有難いものである
- Global Voices Online の記事は、他のメディアが注目しない場所や人々について光を当てるものである
- ボランティアの翻訳者による翻訳を支援する方法を考えた

2 ボランティアの翻訳者を如何に支援するか

- 翻訳者を支援する既存のプロジェクト:
「椎茸プロジェクト」 — 対象が個々の翻訳者
- 世の中の多数の翻訳者を一度に支援するためのシステムを構築することを考えた
- ボランティアの翻訳者をホスティングすることを目標とし、そのためのWeb サイト(「みんなの翻訳」)を構築した

ホスティングにより、世の中の多数の 翻訳者を支援できると考えた理由

- ① sourceforge.net のように、オープンソースプロジェクトをホスティングすることにより、オープンソースの開発や普及を促進している例がある。ボランティアの翻訳者をホスティングすることにより、同様な成功が望めるのではないかと考えた

続き

- ②ボランティアの翻訳者が翻訳したテキストは、原文と共に保存されているので、他人の翻訳を自分の翻訳に利用できる
- ③ボランティアの翻訳者が翻訳したテキストは、サイト上に保存され、公開されるので、公開する場所を提供することになる

3 「みんなの翻訳」のコア

- 「みんなの翻訳」において、上記の理由を実現するために、以下のことを考慮した
 - 翻訳結果を共有する仕組みを準備すること
 - 良い翻訳支援エディタを提供すること

4 翻訳結果を共有する仕組み

- 翻訳結果を共有するためには、原文と翻訳文の使用許諾について考慮する必要がある。
 - (1) まず、システムは原文の使用許諾条件を確認する。
 - (2) 次に、システムは翻訳文の使用許諾条件を確認する
- 原著者や翻訳者の著作権を尊重しつつ、翻訳を共有できる仕組みを準備している

共有された翻訳を どのように利用するか

- みんなの翻訳サイトには、原文と翻訳文対して文アラインメントを適用することにより、対訳文対を作成する → どのような文字列がどのように訳されたかを検索できる
- 利用者が互いにコミュニケーションする手段として、質問および回答の機能も設けている

5 翻訳支援エディタ: QRedit

- 実際の翻訳にあたっては、翻訳支援ツールQReditを用いる
- 最初にQReditの基本設計理念を述べ、次に本エディタの機能の1つである「注目度別強調表示機能」について説明

5.1 基本設計理念

- (1) 新たな情報・機能を提供するのではなく、翻訳者が現に行っている作業の手間を省く
- (2) システムが決めるのではなく、翻訳者が決めるのに必要な情報を提供する
- (3) 翻訳者の発想を豊かにする情報を表示する
- (4) できるだけシンプルにする

5.2 注目度別強調表示機能

- 本エディタでは入力された原文に対し、複数の辞書や翻訳者が登録した用語を対象に辞書引きを行ない、翻訳者は単語をクリックすることで簡単にその訳語を把握することができる
- 辞書引きの際に翻訳者が見落としがちな用語に対して、翻訳者がその用語にどのくらい気づいているかという度合をawarenesslevel という尺度として定義した。「構成要素」「難易度」「専門性」「出典」の値を定義し、それらの値の和を基にawareness level を算出する

6 おわりに

- ボランティアの翻訳者による翻訳を支援するため、ボランティアの翻訳をホスティングする Web サイト「みんなの翻訳」を構築した
- 翻訳した文書を共有できる枠組を備えている
- これにより、ボランティアによる翻訳の発展を助けることができればと思っている